

令和3年度 一般選抜問題 1期 【1日目】

政治・経済

1

次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。

(34点)

古代ギリシャの哲学者、はその著書『学』のなかで、「人間はボリス的（社会的）動物である。」と述べた。わたしたちは、家庭、学校、会社などの社会集団に属し、人間関係を結びながら社会生活を営んでいる。その際、社会の構成員としての個人や社会集団のあいだに、考え方や利害の対立が生じることがある。このような場合に、人間は利害を調整し、対立や紛争を解決するために、民主的な話し合いを行い、ルールや法を決めている。これらのはたらきが、ひろい意味でのである。

対立の調整は、全員の同意を得ておこなわれるのが理想であるが、つねにそれができるとはかぎらない。そこで、強制力を用いて、共通の利益の実現をはかることもある。こうした人びとを強制する力を権力という。

近代以前の社会は、貴族や聖職者など一部の特権をもつ人びとが土地と領民を支配する封建制といわれる身分社会であった。分権的であった状態から国王が強大な権力をもって、中央集権化をはかって生まれた王政のもとでは、それを正当化するために、国王の権力は神から与えられたものであるとする説が唱えられた。

やがて、新興市民階級（）が蜂起して、王政を打倒して市民を解放し、市民の自由、平等、政治的権利などを獲得した変革が生起する。市民革命は、17世紀のイギリスの革命（1642年～1649年）や、（1688年）にはじまり、18世紀末のの独立革命（1775年～1783年）で市民社会と市民の的権利が確立した最初の共和制国家が成立する。

この時期、市民革命に影響を与えた多くの思想家が登場している。はその著書『リバイアサン』のなかで、人間は状態のもとで自由に行動できるが、各人の自由な行動が万人の万人に対するを生み出すことから、それを避けるために、人間はによって権を国家に譲渡して、秩序を維持するしかないと述べている。かれの考えは、結果的に王政を擁護することとなった。

ロックはその著書『 二論 (市民政府二論)』において、 状態における人間は平等であり、生命、自由、財産の 権をもっていると考えた。ロックの社会 説は、 権をより確実なものにするために、 を結んで国家をつくり、その代表者に 権力を信託するというものである。したがって、かれは、政府が 権を侵害した場合、国民には革命権 (権) が生じるとしている。

ルソーはその著書『社会 論』のなかで、人間は本来、自由、平等で、おたがいに共存できるが、私有財産の発生によって共存が保てなくなるので、 を結んで共同体をつくり、 権をこの共同体にゆずりわたすことを唱えている。そこでは、主権は各個人の意志である 意志からは離れた、公共の利益の実現をめざす 意志 (共通意志) にもとづいて行使されると説いた。かれの思想は、1789年のフランスの 宣言 (人間および市民の権利の宣言) に影響を与えた。

問1 空欄 ～ に入る適切な語句を答えなさい。

2

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(33点)

1 階級を中心とした勢力が政権に就き、生産手段を公有化して社会的平等をはかろうとする 2 運動が、3 末から各国で勃興した。1917年のロシア革命により、ソビエト 2 共和国連邦（ソ連）が世界初の^(a) 2 国として誕生し、第二次世界大戦後には東欧やアジアなどで、さらに数多くの^(b) 2 国が成立した。

ソ連をはじめ、ほとんどの 2 国における政治体制は、4 の分立を否定する 5 集中制と、6 をほぼ唯一の合法政党とするプロレタリア独裁の思想を特徴とする。前者については、すべての 4 は人民を代表する合議体に帰属させるべきであるという理念が、後者については、1 と農民を代表する 6 の啓蒙指導によって 2 革命に対する抵抗を排除する必要性が、その理由とされている。人間の合理性と 6 の無謬性^{むびゅう}*への信頼を前提とする限りでは、人間の合理性に対する懐疑を基礎に、政治上の経験的暗黙知を体系化した 4 分立論よりも、制度を支持する積極的理由の点で明快である。

しかし、自由権を大幅に制限した政治体制や 7 経済は、企図した成果を挙げられず、1989年以降、東欧諸国は 2 体制を放棄していった。そして1991年には、2 諸国の中心的存在だったソ連が崩壊した。

※理論や判断にまちがいがいいこと

問1 空欄 1 ～ 7 に入る適切な語句を語群から選び、記号で答えなさい。

【語群】 ア. 20世紀 イ. 帝国主義 ウ. 労働党 エ. 権力 オ. 僭主
カ. 計画 キ. 軍備 ク. 労働者 ケ. 放任 コ. 社会主義
サ. 資本家 シ. 君主 ス. 19世紀 セ. 市場 ソ. 共産党
タ. 国有財産 チ. 無政府主義 ツ. 共和党 テ. 使用者
ト. 18世紀 ナ. 民主

問2 下線部(a)に関し、その指導者として適切な人名を、下記の選択肢から選び、記号で答えなさい。

- ア. レーニン イ. マカロフ ウ. ジューコフ
エ. コンドラチェンコ オ. トハチェフスキー

問3 下線部(b)に関し、現在またはかつての社会主義国の組合せとして正しくないものはどれか、下記の選択肢から2つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 東ドイツ・ベトナム イ. ルーマニア・トルコ
ウ. オーストリア・中国 エ. ユーゴスラビア・モンゴル
オ. チェコスロバキア・北朝鮮 カ. ポーランド・キューバ
キ. ブルガリア・ラオス

3

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

(33点)

国の経済の規模を表す指標のひとつに国内総生産^(a)がある。国内総生産は一定期間（通常は1年間）に国内で新たに生産された の総計として計算され、この金額は最終生産物の総額と一致する。

国内総生産に海外からの純所得を加えたものが国民総所得^(b)である。国民総所得から生産に使われる機械などの価値の減少分である を差し引くと、国民純生産が計算できる。さらに国民純生産から を差し引き、政府の を加えたものが国民所得である。

国民所得には「三面等価」と呼ばれる原則がある。三面等価の原則とは、国民所得は 3つの側面^(c)から把握でき、それぞれの側面から把握した金額はすべて一致するという原則である。

国の経済の成長は、一定期間（通常は1年間）の国内総生産の増加率で表される。ただし、国内総生産の増加率は物価変動の影響を受けるので、物価の変動を除いて計算された国内総生産の伸び率を と呼び、これが国の経済成長を表す主な指標として使われている。これに対し、物価の変動も含めた国内総生産の伸び率のことを と呼ぶ。

物価^(d)とは、多数の商品の価格を総合的・平均的に表したものである。物価は常に変動しているが、物価が持続的に上昇することを と呼び、反対に、物価が持続的に下落することを と呼ぶ。

日本では1973年の第1次石油危機による原油価格の上昇で激しい物価上昇が起こり、「狂乱物価」と呼ばれた。またこの時期から、不況下で失業率が高いにもかかわらず物価が上昇するという が発生した。しかし1990年代以降は景気が低迷し、物価が下落傾向にある。近年では物価の下落と不況の進行が悪循環しながら進行する と呼ばれる現象が問題になった。

問 1 空欄 ～ に入る適切な語句を答えなさい。

問 2 下線部(a), (b)をアルファベット 3 文字に書き直しなさい。

問 3 下線部(c)の 3 つの側面とは何か, 3 つすべて答えなさい。

問 4 下線部(d)に関して, 物価には 2 種類があるが, それぞれ何か, 答えなさい。